



# 福島赤十字病院



2019年1月開院

## 病院概要

所在地：〒960-8530 福島県福島市八島町 7-7

TEL 024-534-6101 FAX024-531-1721

病床数：296 床（旧病院：348 床）

一般 268 床、HCU12 床、感染 6 床、精神科 10 床

診療科目：24 科

内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、精神科、循環器内科、血管外科、心臓外科  
呼吸器内科、呼吸器外科、整形外科、脳神経内科、脳神経外科、小児科、皮膚科  
耳鼻咽喉科、産婦人科、形成外科、眼科、泌尿器科、麻酔科、救急科、放射線科  
病理診断科、リハビリテーション科

職員数： 614 名

医師数： 52 名 研修医数： 16 名

看護師数： 322 名

診療放射線技師数： 14 名（内 男性 10 名・女性 4 名）

認定技師取得者数： 4 名

認定内容：

- ・X 線 CT 認定技師 1 名
- ・肺がん CT 検診認定技師 1 名
- ・救急撮影技師 1 名
- ・Ai 認定診療放射線技師 1 名
- ・検診マンモグラフィ撮影技術認定技師 3 名

病院棟構造： 地上 7 階 免震構造

駐車場： 350 台（地上駐車場 177 台、立体駐車場 173）

主な施設認定

第二次救急指定病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、  
地域医療支援病院、原子力災害拠点病院

福島赤十字病院は、昭和 18 年福島市舟場町（現病院から 2km ほど南）に 32 床の日本赤十字社福島支部療院として設立しました。

昭和 19 年に福島赤十字病院と改称し、昭和 37 年に福島市入江町に移転、2019 年の元日に約 57 年間診療を行ってきた入江町から西へ 300m ほど移動した八島町へ新築移転しました。

病床数は 296 床の 7 階建てです。

『みなさまに信頼され親しまれる福島赤十字病院』を基本理念に救急医療、地域医療、災害医療に力を注いでいます。特に救急医療は、第二次救急医療機関として年間約 3,000 件を超える救急車を受け入れています。

救急センター、循環器センター、脳卒中センターを設置し、県北医療圏における救急医療の中核病院として質の高い救急医療を行っています。

災害拠点病院としては、高度な災害対応を行うため、免震構造、病院機能を 100%維持できる非常用電源、自然採光、井水設備、正面エントランスのピロティ空間（横 95m、奥行き 8m）など災害時における診療を確保できる機能を有しております。

1F に救急センター、検査フロア（放射線部門・内視鏡・生理検査）、健診センター、コンビニ、多目的ホール。2F に全診療科の外来、中央処置室、薬剤部門、検査部門、外来化学療法室。3F に手術室、HCU、IVR センター、病理室、ME センター、循環器センターなど病棟。4F に医局、管理部門、事務部門、レディース病棟。5F に脳卒中センターなど病棟。6F に病棟。7F にリハビリ部門、病棟、機械室。屋上には福島県の防災ヘリやドクターヘリの離着陸に対応可能なヘリポートを設置し広域医療にも対応しております。



放射線部門のスタッフは、放射線科医師 1 名、放射線技師 14 名（女性技師 4 名）、造影 CT・MR 担当看護師（外来所属）1 名、助手 1 名、事務 3 名で構成され、常に患者さんに寄り添った『やさしい検査』と『診療に有用な画像情報』を提供できるよう心掛けています。

設置装置は、1F 検査フロアに一般撮影 3 台、X 線透視装置 2 台、CT 装置 1 台、MRI 装置 2 台、ポータブル 2 台。新設した健診センターに一般撮影 1 台、乳房撮影装置 1 台、骨密度測定装置 1 台、ホールボディカウンター 1 台。3F の IVR センターに血管撮影装置 2 台、手術室に外科用イメージ 3 台、ポータブル 1 台、HCU にポータブル 1 台の計 21 台となっています。

CT・MRI の Workstation は Ziostation2 を使用しています。

RIS・PACS は Canon（旧東芝）製ですが 2021 年 3 月下旬に PSP に更新いたします。

救急センター近くに、CT・MR・一般撮影を配置したことで緊急検査の動線が改善され、迅速に検査を行えるようになりました。



#### 当直・夜勤体制について

脳外科の関わる夜間輪番日にあたる月の約半分が、16:30 から 9:00 までの準夜・深夜の勤務を行いそれ以外の夜間はオンコール対応での 24 時間救急体制をとっています。

アンギオ当番は、アンギオ担当者が毎夜交代でオンコール対応を行っています。

## 導入機器

### 一般撮影

担当技師：3 人      機器台数：4 台

日立・Radnext 50   2 台

・DHF-153HⅡ   1 台   ･DHF-155HⅡ   1 台

1 日平均撮影件数（110 件）

### マンモグラフィ

担当技師：1 人      機器台数：1 台

SIEMENS・MAMMOMAT Inspiration

1 日平均撮影件数（6.5 件）



### ポータブル

担当技師：2 人      機器台数：2 台

日立・Sirius Starmobile tiara airy（病棟用）      島津・MobileDart Evolution（手術室用）

1 日平均撮影件数（18 件）



### CT

担当技師：2人 機器台数：1台（80列）  
 CANON・Aquilion PRIME SP  
 1日平均撮影件数（50件）  
 Ziostation2

### MRI

担当技師：2人 機器  
 SIEMENS・MAGNETOM  
 1日平均撮影件数（21件）



台数：2台（1.5T）  
 Amira



### 血管造影

担当技師：2人 機器台数：2台  
 PHILIPS・Azurion 7 B12/12（心カテ用）  
 ・Azurion 7 B20/15（頭部、腹部、下肢など）  
 1日平均撮影件数（2.4件）

### 透視装置

担当技師：1人 機器台数：2台  
 日立・EXAVISTA  
 1日平均撮影件数（4.5件）

### 骨密度

担当技師：1人 機器台数：1台  
 HOLOGIC・QDR Discovery Wi  
 1日平均撮影件数（2件）



### Workstation

Amin・Ziostation2（CT、MRI用）

2019年1月に病院の新築移転を行い、その際に装置10台とWorkstationの更新を行っています。

CT1台、MRI2台、血管造影2台、乳房装置1台、透視装置2台、一般撮影1台、ポータブル1台、CT・MRのWorkstation

## COVID-19 感染症患者対応について

当院は、第2種感染症指定医療機関として感染者を受け入れる病床が6床（陰圧室）あり、2020年2月15日からCOVID-19感染又は感染を疑われる患者さんの受け入れを行ってきました。感染の拡大により病棟のゾーニングが行われ、現在は18床を確保しています。

2021年2月末までの約1年間に、約150名のCOVID-19感染症患者のX線検査とCT検査の対応を行ってきました。

### ① 受診・相談センター（旧：帰国者・接触者相談センター）から依頼の場合

受診・相談センターからCOVID-19感染患者の受入依頼は、感染管理担当の看護師に連絡が入り、放射線科部と撮影開始時間などの調整を行い来院していただきます。

撮影対応する時間帯は、平日は夕方16時00分から17時半ぐらいで、休日は11時から15時ぐらいとなっています。事前に入院していただく場合もあります。

患者さんは、感染診療室で診察し陰圧装置付の車椅子で放射線科部へ移動して撮影を行います。

感染診療室から最も近い一般撮影室で胸部X線撮影を行い、次いでCT撮影を行います。

一般撮影室入室からCT室退出までを検査時間としますと、7分から10分ほどの検査時間です。

感染診療室から撮影室までの動線となる通路は、感染症患者対応のため通行止めとします。担当の職員を配置し案内板を立て、迂回路を案内するなど一般の患者や職員が接触しない対策を講じております。

### ② 外来受診で来院した患者さんで、問診や診察の結果COVID-19感染を疑わしいと判断された場合は、主治医又は看護師から注意喚起の連絡が入り放射線部の検査状況をみながら来室いただきます。

おおむね、感染診療室から来る場合と同じですが、日中であるためゾーニングに苦慮するところです。まず胸部X線撮影を行い、そのまま一般撮影室で待機いただき、CT室が空いたタイミングで胸部CT撮影を行います。

検査に対応するスタッフは、患者担当と操作室担当の2名の技師で対応しています。

患者担当者が个人防护具(PPE)を装着しポジショニングを行い撮影室内に防護衝立を用意して撮影中も室内に留まります。操作担当者は操作室にて装置の操作・画像の送信を行います。

検査対応時の个人防护具は、白衣から術衣に着替え、手指衛生後に長袖のエプロン、N95マスク、ゴーグル、キャップ、プラスチック手袋2枚重ねて装着します。

昨年4月上旬から9月頃は、防護具の供給不足のため、飛沫による感染リスクがないと判断される患者の対応で使用したN95マスク、ゴーグル、キャップはアルコール消毒を行い再利用しておりました。また、エプロンの代わりに、雨カッパと最悪の事態に備えエプロンを作成するための70Lのポリ袋も確保し試作も行っていました。

撮影室の準備は、CT装置の寝台をディスポのシート1.2m×2.5mで養生し、24時間常時陰圧状態で使用しております。一般撮影室の立位撮影装置もビニールやディスポのシートで養生し撮影しております。その他、手が触れる所は、すべてディスポの圧布やビニールなどで養生を行います。

撮影終了後は、養生を撤去し装置などの清拭消毒を念入りに行います。

8月には、COVID-19感染者に対応した職員の抗体検査が実施されましたが、放射線科部スタッフをはじめ全員が陰性でありました。

### 院内感染の発生

しかし、昨年12月の福島市内における市中感染拡大の影響を受け、当院でCOVID-19の院内感染が発生してしまいました。

救急搬送(重症患者)され入院した患者さんの家族がCOVID-19感染していることが分かり、その濃厚接触者としてPCR検査を実施した結果、感染が判明しました。

令和2年

12月14日(月) 急遽、関係する入院患者さんとスタッフのPCR検査を実施  
入院患者2名と看護師2名の感染が判明

12月15日(火)～ 外来診療、救急患者受入れ、新入院受入れ、不要不急の手術を休止とする  
自宅待機職員は、医師5名、看護師68名  
最終的な感染者は、8名 : 入院患者3名、看護師5名  
(看護師5名については、自宅待機中の陽性判明であったことから  
感染拡大を防げたと考えられます。)  
入院患者・職員全員のPCR検査を実施 陰性を確認

12月28日(月) 院内感染の終息宣言

令和3年

1月1日(金)～ 救急患者受入を再開

1月4日(月)～ 外来診療再開

半月に及ぶ外来休診、救急患者受入停止中は、近隣の医療機関には多大なる負担をかけることとなってしまいました。二度と院内感染を発生させないこと、自分たちが感染しないことを第一にスタッフ全員が高い意識を持ち診療を行っています。

現在は、発熱やせきなど症状のある患者さんに対し抗原定性検査を行ってからX線検査を行っています。また、CT装置の寝台は常にシートで養生を行い疑わしいと思われる場合は、シートの交換を行っています。

今後は、感染の第4波や感染力が強いとさせる変異ウイルスによる広がりが懸念されます。予断を許さない状況にある事を肝に銘じ、ソーシャルディスタンスの確保、手指衛生、個々の感染対策への取り組みの継続などさらに基本的な対策を徹底していきたいと考えます。

- サージカルマスクの着用と手指衛生の徹底
- 午前・午後の検温実施と健康管理の徹底

- ・休憩室の密集の回避（昼の休憩を前半・後半の2班から、前・中・後の3班に分ける）
- ・共有で使用する端末、設備、備品の消毒 など
- ・標準予防策の徹底 入院患者・ER患者対応時のPPE装着

## 原子力災害拠点病院としての役割

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から今年で10年となりましたが、原子力災害の傷跡は、消えることなく震災の復興も道半ばといったところです。

当院は、2017年4月より原子力災害拠点病院に指定されています。さらに2019年1月新築移転に伴い、簡易除染など原子力災害に対応する設備も有しています。原子力災害医療体制は、高度被ばく医療支援センター、原子力災害拠点病院、原子力災害医療協力機関からなり、その中で当院が担う原子力災害拠点病院は、原子力災害において汚染の有無に関わらず傷病者を受け入れ汚染（被ばく）がある場合に適切な診療などを行う役割になっています。また有事の際には、高度被ばく医療支援センターや原子力災害医療協力機関からの支援・協力を受けながら、当院より原子力災害医療の専門研修を受けた原子力災害医療派遣チームが中心となり活動する体制となっています。

原子力災害における日本赤十字社の歴史は、2011年3月11日東日本大震災の福島第一原発事故の救護活動時に、放射線に対する知識不足から全12班が福島から撤退という苦い経験から始まっています。これを教訓に日本赤十字社では、原子力災害・被ばく医療の必要性を感じ2013年5月に原子力災害における救護活動基準を作成し、同年10月には赤十字原子力災害センターを設置しています。その後2015年3月に原子力災害における救護活動ガイドラインを作成し、同年度から原子力災害医療アドバイザーを任命しアドバイザーを中心に救護班を対象とした原子力災害対応基礎研修会を開催しています。当院でも原子力災害医療アドバイザーとして医師1名、診療放射線技師1名が任命されています。

『“万が一”の備えを普段から』 どんないん災にも当てはまりますが、

原子力災害は、通常の救急医療と災害医療に加え、被ばく医療の考え方が必要となる複合災害であり、その中で原子力災害拠点病院は先頭に立ち活動する立場になります。原子力災害拠点病院は原子炉施設等が立地する道府県で指定されています。2020年4月時点で全国にある91施設ある日本赤十字医療施設のなかで、原子力災害拠点病院は石巻・福島・福井・長浜・大津・松山・唐津の7施設となっています。その他、原子力災害協力機関には13施設が登録されています。



## ふくしまの紹介

最後に福島を紹介させていただきます。全国で3番目に広い面積を誇る福島県は、太平洋側に位置し海洋性気候で過ごしやすい「浜通り」、東北新幹線や東北自動車道が通り県の政治経済の中心でもある「中通り」、磐梯山や猪苗代湖など豊かな大自然と、会津若松をはじめ歴史と伝統の名所が点在する「会津地方」の3つのエリアに分かれています。



震災から10年『Fukushima』で有名になってしまいましたが、山、森、湖、海、どれを取っても四季の移ろいはそのままで。

当院のある福島市は、中通りエリアの宮城県に隣接する県の北部に位置する盆地です。



写真左上にあたる南側に見えるのは、災害時の緊急避難場所の指定を受けているJRA 福島競馬場です。写真右上にあたる西側には、旧病院が奥に見えております。

近隣には、福島市のシンボルである信夫山（しのぶやま、標高275m）があり、ふもとはは祓川（はらいがわ）が流れ、川沿いに遊歩道が整備され恵まれた環境にあります。また、国内でも有数の音響設備を誇る福島

市音楽堂、そして隣接して古関裕而記念館があります。

古関裕而は昨年放送されたNHK連続テレビ小説「エール」のモデルである福島市出身の作曲家です。戦後の荒廃した社会の中で『とんがり帽子』、『鐘の鳴る丘』など明るく希望に満ちた曲をつくり続け多くの人を元気づけました。生涯5,000曲もの作品を手掛けました。

福島駅新幹線ホームの発車メロディーは、夏の甲子園でおなじみ『栄冠は君に輝く』、在来線ホームは『高原列車は行く』となっていますので機会がありましたらぜひ生でお聞き下さい。

**温泉**：福島市には、飯坂・高湯・土湯などの温泉があります。福島駅から北へ12Km、飯坂温泉は温泉街を流れる摺上川沿いに旅館が建ち並び“福島奥座敷”。松尾芭蕉が立ち寄ったとされる歴史ある温泉地です。鯖湖湯（さばこゆ）をはじめ9つの共同浴場があり、手軽に温泉巡りが楽しめる市民にも人気の温泉街です。温泉宿は40軒を超えます。泉質は、アルカリ性単純泉で熱めのお湯が特徴です。

福島駅から西へ車で 30 分、吾妻山連峰の中腹、磐梯吾妻スカイラインの入り口手前に奥州三高湯に数えられる秘湯高湯温泉があります。標高 750m 7 軒の温泉宿と 1 軒の共同浴場があり乳白色の硫黄泉です。歴史ある個性豊かな温泉を求め県内外から多くの湯治客が訪れる温泉です。

高湯温泉：玉子湯にて



**お酒**：日本酒は、県内に 63 の蔵元が腕を競い合い全国新酒鑑評会では金賞数 7 年連続日本一を獲得し美味しいお酒を多く排出しております。自分に合う一品を探してみてください。

温泉と日本酒の最強ペアに加え、もも、なし、りんご、さくらんぼなどのフルーツも美味しいです。

春から秋にかけて色とりどりの花が山の斜面を咲き誇る“福島の桃源郷”と呼ばれる**花見山**も人気スポットとなっております。平穏な日常が戻りましたら、ぜひ福島へ足を運び下さい。

お待ちしております！